

学生の視点から



キャンパスの環境に関する質問に答えます

学生が日常のキャンパス生活の中でふと感じたキャンパスの環境に関する素朴な疑問に答えます。



大学構内に放置自転車はどのくらいありますか？
また、その自転車はどうなるのですか？



集められた放置自転車

東山キャンパスでは、毎年平均で約800台もの自転車が放置され、歩行者の通行や駐輪場利用の妨げなど大学活動に支障をきたしています。これらの放置自転車は、盗難届が出ているものは警察署に引き取ってもらい、それ以外は自転車のリサイクルを行っているNPO法人に引き取ってもらいます。

放置自転車を減らす対策として2015年度から不要自転車の引き取りと譲渡のルールをつくり、全学に呼びかけを行っています。



キャンパスでは毎月どのくらいのごみが出ているのですか？



使用済封筒やふせんも回収してリサイクルしています

季節により差はありますが、東山キャンパスの一般ごみ関係では毎月、以下の量のごみが出され、そのうち缶・ペットボトル・空きビン、古紙についてはリサイクルされています。毎年のごみの量についてはP43に掲載しています。

- ・可燃ごみ・不燃ごみ 約42トン
- ・缶・ペットボトル・空きビン 約5.6トン
- ・古紙 約36.3トン



構内に落ちているごみが少ないような気がするのですが、誰かごみ拾い等を行っているのでしょうか？



業務支援室による清掃活動

本学の緑地保全管理を委託している専門業者や業務支援室の方々に、日頃から道路清掃や除草作業を行う際にごみ拾いも行ってもらっているほか、自発的にごみ拾いや掃き掃除をし、キャンパスの環境美化に協力してくださる方もいます。大学の行事としては年2回、キャンパスクリーンを実施し、教職員が中心となって構内を清掃しています。

※業務支援室については環境報告書2017のP27、28で紹介しています。

学生の視点から

キャンパスの環境に関する質問に答えます

学生が日常のキャンパス生活の中でふと感じたキャンパスの環境に関する素朴な疑問に答えます。



東山キャンパス内にいくつか池がありますが、どのように管理されているのですか？



鏡ヶ池（対岸の建物は
附属中・高等学校校舎）

東山キャンパス内の池は主に雨水や湧水を水源としたものであり、特別な排水管理は行っていませんが、山崎川に放流しているため、定期的には水質検査を行っています（水質検査結果についてはP45に掲載しています）。また、池周辺の衛生管理として定期的には除草等を行っています。

2017年に話題になった鏡ヶ池のアリゲーターは名古屋市の協力の下で捕獲されました。飼育動物を放置することは大学や近隣住民の安全な生活のほか、その周辺の生態系や環境までも脅かす可能性があるため、今後も十分に注意を呼び掛けていきます。



東山キャンパス内に大きな水溜まりが頻繁にできるのですが、雨水処理はどのように行っているのですか？



大雨で大きな水溜まりができてしまう
全学教育棟本館前

雨水は東山キャンパス内に張り巡らされている雨水排水管によって鏡ヶ池に集められ、最終的には公共河川に合流します。しかし、老朽化している箇所の配管に木の根が侵入する、または落ち葉が詰まるなどの要因もあり、大雨の際には排水が追いつかず、特に地盤が低くなっている場所では大きな水溜まりができてしまいます。この問題の解決に向けて、雨水排水の配管サイズを見直し、新しい配管への取り替えなど検討を進めています。



学内で一番電気消費が少ない建物はどこですか？
そこではどのような取組が行われているのですか？



アジア法交流館



屋上の太陽光発電パネル

東山キャンパスにおける5,000㎡の延床面積を超える建物のうち、電力のエネルギー消費原単位*が小さい建物は、2015年度に完成したアジア法交流館です。アジア法交流館では、照明器具の全館LED化、高効率空調機器の採用のほか、学内で一番容量の大きい太陽光発電設備（計52kW）が設置されています。また、現在の発電量や電気使用量などの「見える化モニター」が建物内に設置されており、施設利用者の省エネ意識啓発にも貢献しています。

*：エネルギー消費原単位とは、床面積あたりのエネルギー使用量を表すものです。文系の建物は小さく、理系の建物は実験機器等の影響により大きくなる傾向にあります。